

文化庁

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業-コミュニケーション能力向上事業-」 ＜NPO 法人提案型＞

子供たちの創造性やコミュニケーション能力を育むための ダンス体験学校訪問ワークショップのご案内



(左：南城市立知念中学校 右：石垣市立野底小学校 R4年度アーティスト：合田緑、マニシア、赤丸急上昇、田畑真希、知花幸美)

NPO 法人 JCDN(ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)は、京都市内に事務局を置き、アーティストとともに全国各地へダンスを届ける活動を行っています。教育に関わる活動では、これまで、文部科学省(令和元年より文化庁に移行)の「コミュニケーション教育事業」や行政からの委託を受けて、アーティストが小・中学校へ出向いて行うワークショップのコーディネート、学校の先生のためのダンス教材開発などを行っています。からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、一人一人の個性を引き出し、生きる力を養い、多様な価値観や他者との協同などについて学ぶことを推進しています。

H27-R4 年度、当該事業を沖縄県内 23 校で実施しました(那覇市[石嶺小/大道小/真壁小]、沖縄市[美咲特別支援/桑江中/山内小]、名護市[瀬喜田小]、八重瀬町[新城小(2 回)]、西原町[西原南小/西原東小]、南城市[知念中(2 回)]、豊見城市[伊良波小]、宜野湾市[普天間小]、うるま市[あげな小/高江洲小]、石垣市[石垣小/平真小/野底小]、竹富町[上原小(2 回)]、宮古島市[佐良浜中・伊良部島中(3 回)]。本年度も、沖縄県内の小中高校を対象に、下記の通り、実施希望校を募集します。ぜひこの機会にご応募ください。

記

1. 派遣アーティスト

学校側の希望と可能なスケジュールをお聞きし、全国のダンスのアーティストの中から、経験が豊富で信頼のできるアーティストを、JCDN(コーディネーター)が推薦し、各学校と相談の上決定します。

2. 派遣期日 令和5年7月～令和6年2月末まで(※開催時期は各学校とご相談の上、決定)

小中高校のいずれか計3-4校程度で実施。1回1クラス～2クラス程度(多い場合は応相談)。

回数は、1回90分(*)×3回のワークショップを3日間連続で行います。

* 当該事業が同じ児童生徒に対し最低3回以上の授業を行う事を推奨しています。1学年3クラス以上など人数が多い場合は、2クラスごとに時間割を分けて行うなど検討します。詳しくは、実施決定後に打合せを行い、相談して決めます。

3. 費用 アーティストにかかる交通費・宿泊費・謝金など、全て文化庁の助成金により負担します。

4. 受託団体 NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN) 担当:神前(コウサキ) 京都市下京区神明町 241 オパス四条 503 TEL/075-361-4685 Mail/jcdn@jcdn.org WEB: <http://www.jcdn.org>

5. 申込・問合せ 2023年5月31日(水)までをめぐに、沖縄県教育委員会 文化財課(担当/立津)まで。 FAX : 098-867-4350 Mail:tatetsma@pref.okinawa.lg.jp ※内容に関するお問い合わせは、4の受託団体までお願いします。

＜授業後の教員アンケートより＞

(児童について) ●日をおうごとに表情がほぐれて楽しんでいる様子が見られました。●ダンスに対するマイナスなイメージを持った生徒の多くが、本事業終了後には、「楽しかった」という意見が大半を占めた。さらに、時間を重ねるごとに、生徒一人一人が他者と協力し、コミュニケーションを通して、オリジナリティーあふれる作品に仕上がった。体の細部にわたって、感じを込めて踊ったり、表現することの楽しさを感じていたことに、本事業の凄さと魅力を強く感じている。 ●自分を自由に表現する事や表現できることに喜びを感じることができた。人前で踊るという恥ずかしさは大人でもなかなか拭い去ることができないが、一緒にやっているうちに少しずつほぐれていくんだと思った。

(先生ご自身について、他) ●とても良かった。ダンスに関する引き出しが少ないので、講師の先生方が工夫を凝らして用意してくださったワークの数々が、とても参考になった。●課題へのアプローチの仕方や見方が、教員以外の視点で頂けたことが、今後の指導における大きなヒントとなった。3日間の授業をゆっくりじっくり客観的に子どもたちを見つめ直す機会となった。●学校では統率されることが多いが、個々の自由な発想を大切にしていきたいと考えるようになった。●こんなに素晴らしい事業があるなんて今年初めて知りました。●子供達の別の一面が見られた。

＜児童生徒のアンケート(小学1年生～中学3年生) より＞

●コンテンポラリーがこんなに楽しいとは思わなかった。 ●めっちゃくちゃたのしかったし、またやりたいなと思いました。 ●普段は体験しないことをしたので新鮮で楽しかった。 ●最初の先生たちのダンスが衝撃的で、絶対明日、筋肉痛なる！と思って観ました。 ●自分もみんなもいつもと違う感じでとても楽しかった。 ●ものすごく楽しくてダンスの先生みたいになりたいと思いました。 ●からだをこんなにたくさん動かせるんだと、知りました。 ●ふりつけがないことにびっくりした。 ●自由に踊っていいというところがおもしろい。 ●いろんなダンスのやり方があるのを知れてよかった。 ●みんなにいろんな特技があることを知れた。 ●自分に自信が、意外にあった。 ●ダンスは自分の気持ちを表現できる感じた。 ●自由に考えて踊るのは楽しい。 ●忘れかけていた小さい頃感覚が取り戻せる感じがしてうれしかった。 ●ありのままの自分を発見できた。 ●このような形のダンスがあるということを初めて知った。 ●自分で考えたダンスを踊ることも楽しいと、発見した。

実施希望調書（申し込み用紙）

学 校 名		立		学校	
所 在 地 等		〒		TEL FAX	
		御担当者: E mail			
学校長名				担当者名	
1	実施学年・学級数				
2	対象児童・生徒数		年生 クラス 名（男 人／女 人） *3クラス以上の場合は、時間をずらして実施するなど、応相談。		
3	実施日程(希望される時期などをお書きください。)				
4	実施希望理由、ほかコメント等あれば				
5	教育課程への当該事業の位置づけ				

【八重山日報 2022年9月9日】

「思う存分表現して」

野底小でダンス教室

全国各地にダンサーを派遣し、ダンスの普及活動を行うNPO法人、ジャパン・コンテンポラ



子どもたちと手をつないでダンスするマニシアさん＝7日、野底小

リー・ダンス・ネットワーク（JCND）は7日、石垣市立野底小学校でダンス教室を開いた。

同法人は石垣小、上原小など八重山の各学校でも活動実績があり、この日はマニシアさん、DAI（ダイ）さんら有名パフォーマーが来校。子どもたちにダンスの基本的動きを教えた。

マニシアさんは子どもたちの手をとり、DAIさんの打ち鳴らす太鼓に合わせてダンス。

児童からは「難しい」「マニシアお姉さん上手」などと笑顔があふれ、最後は「うれしい」という感情を、マニシアさんとともにダンスで表現した。

児童会長の6年生・瓜

生幸吉君（12）は「エイサー以外で踊ったことがないので楽しかった。みんなの前でも思う存分踊れるようになりたい」と笑顔。

2学年上の兄の心之介君（10）とともに元気に踊った3年生の石本愛美（まなみ）さんは「先生の身体がやわらかくてすごいと思った。優しい人でよかったと話した。野底小では9日までの3日間、ダンス教室を行い、最終日は保護者を招いて発表会を開催する予定。マニシアさんは「自分自身で『こんな自分がいたんだ』と分かるのがダンス。思う存分表現してほしい」と呼びかけ、初日を締めくくった。

JCNDは2001年の設立以降、学校での取り組みのほか、東日本大震災復興支援フェスティバルへの参加など、地域に密着した事業を展開している。

定することは許されない」（岡田克也幹事長）と批判する。

だ。政府は国葬当日、各府

2022年(令和4年)12月29日 木曜日
市町村(20)

日常の動作やしぐさなどを取り入れて創作ダンスを作り、教員らの前で披露する知念中の生徒＝9日、南城市立知念中学校



創作ダンスで個性表現

南城・知念中 JCDNがワークショップ

【南城】南城市立知念中学校(志伊良洋子校長)で7～9日の3日間、プロのコンテンポラリーダンサーを招いて創作ダンス体験のワークショップが開かれた。1年生の体育の授業で実施された。表現力を身に付け、生徒同士のコミュニケーションを深めることが目的。最終日の9日には生徒38人がダンスを創作し、同校教員らの前で生徒一人一人が個性豊かに踊った。

ワークショップは、文化庁の事業の一環で、委託先のNPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)が公募で決めた学校に優秀なダンサーを派遣し、ワークショップを開催する。同校では2020年度に続き2回目。

講師は、愛媛県松山市を拠点に活動するコンテンポラリーダンスカンパニー「ヤミーダンス」の合田緑さんと、県内で活動するダンサーの根岸由季さん、兼城将さんが務めた。生徒らは合田さんからアドバイスを受けながら、手拍子を取り入れた振り付けや日常的な動作、しぐさなどをダンスに取り入れた。

参加した山内日陽さん(13)は「最初はできるか不安だったけど、みんなでいろんな表現をダンスに入れてとても面白かった」と笑顔で語った。合田さんは「ダンスを完成させたいという集中力を持ちながら、楽しくダンスに打ち込んでくれた」と語った。

ワークショップを企画したJCDNチーフ・コーディネーターの神前沙織さんは「コロナ禍やSNSの発達で、友達同士のコミュニケーションが取りづらくなっている。創作ダンスを一緒に考え、作ることによって自分らしさを表現して、コミュニケーション能力を高めていくと思う」と期待した。(金城実倫)

美ら島だより

ネットワーク

皆様からの情報をお待ちし

■琉球新報 教育面リレーコラム『未来へいっぽにほ』

2017年4月～9月まで NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワークの神前が連載を担当しました。
(2017年6月23日)

身体はうそをつけない

この時の担任は、そうしたダンスの可能性を見抜いてこう話した。「身体はうそをつけない。ノートも机も、隠すものが何もないから、体一つで勝負しないといけない。他の教科と違ってすぐ数値化できるものじゃないけれど、それ以上の人間力が身に付くと思う」

SNSが普及し、子どもたちが小さな機械に振り回されダイナミックさを失いつつあるという。そういう時代だからこそ、人それぞれの原石が磨かれる機会がたくさんあつてほしい。

ちなみに今年度も当事業を行うことになった。現在、沖縄県教育委員会を通じて参加校を公募している。

未来へ いっぽにほ



神前 沙織 (NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)



2011年度から文部科学省が子どもの表現力・創造力・コミュニケーション力を豊かにするための芸術体験事業を行っている。現代社会で子どもが生きる力をつける学習の一環として、美術、音楽、ダンスなどの専門家(アーティスト)が授業の中で、芸術表現のワークショップを行う。私は学校とアーティストのつなぎ役、それも創作ダンスを専門とするコーディネーターである。沖縄では2年前から沖縄市、那覇市、名護市、石垣市の計4校で実施した。

昨年度、那覇市の小学校で行った3日間の授業が記憶に新しい。思春期前の6年生60名。自我の芽生えが一恥ずかしい「気持ちになつて現れる微妙な年齢だ。1日目には心と体をほぐすのに時間をかけ、2日目は大きく動くとか、仲間の目を意識しすぎずに表現することに慣れてきて、3日目では一人一人の本来の表現が見えるようになる。個人差はあるが、少しずつ、いつの間にか普段の自分や周囲とのしがらみ、関係性を意識せずに関わりを表現できるようになる。とてもすとんと閉じられていた何かが開かれる。そういう発見が随所に見られた。